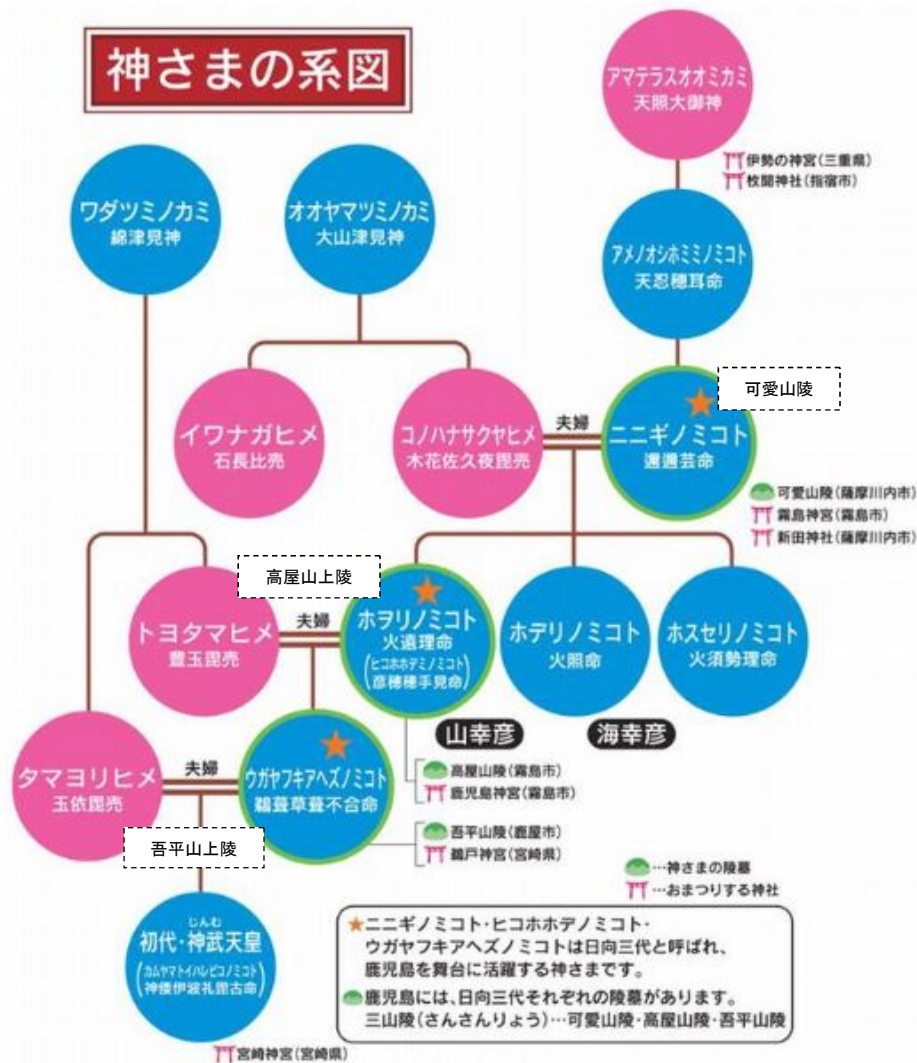


吾平山上陵の概要説明文

「ゆくさ（ようこそ）おじゃしたました（いらっしやいました!!）吾平山上陵へ」

鹿児島県内には三山陵（神代三山陵、皇祖三神の陵の総称）がありますが、先ずその説明から始めます。天照大神の孫に当られますニギノミコトの御陵が薩摩川内市の可愛山陵、ニギノミコトとコノハナサクヤヒメ（山神の娘）との間にお生まれになった第三子のホオリノミコト（ヒコホホデミノミコト）の御陵が霧島市溝辺町の高屋山上陵、ホオリノミコトとトヨタマヒメ（海神の娘）との間にお生まれになったウガヤフキアエズノミコトとそのお後のタマヨリヒメのお二人の御陵が、この吾平山上陵（あいらのやまのうえのみささぎ、略して吾平山陵；あいらさんりょう）です。ウガヤフキアエズノミコトとタマヨリヒメとの間にお生まれになった第四子のカムヤマトイワレヒコノミコトが、奈良の橿原^{カシハラ}で第一代の天皇に即位されました神武天皇です。したがって、吾平山上陵は、皇族の方々とゆかりの深い場所であるのご理解いただければ良いと思います。



(出典は、<https://kagoshimayokamon.com/2016/03/03/enosanryou/>)

御陵は、駐車場から 500m くらいの奥にあって、始良川の対岸の岩屋の中です。

先に述べたように鹿児島には三つの御陵が治定されていますが、このことは明治の初期に天皇制の高揚の気運が高まってきて、明治 7 年 7 月 10 日に天皇のご裁可をもって決められたということです。当時の明治政府の要人の中に、鹿児島から左大臣島津久光、内務卿に大久保利通他三人の方が在職されていたそうです。特に治定については大久保利通が深く関与されたのではないかとされています。

昭和天皇行幸記念碑は、昭和 10 年 11 月に鹿児島と宮崎で陸軍の大演習があった際に、昭和天皇が吾平山上陵に参拝（行幸）されたのを記念して、翌年の 11 月に公爵の島津忠重氏が建立されました。ところが、昭和 13 年の台風による三日間降り続いた集中豪雨により、山陵から約 6km 上流側にある山中で土石流が発生して、その下流域は大災害に見舞われました。吾平山上陵も一部が土石に埋没し、下流域の住民の死傷者が 160 余名に達しました。当時は全国の方から義援金や救援物資などをいただきました。

この昭和天皇行幸記念碑は岩屋の前に建っていましたが、上記の土石流で流失して行方不明になりました。平成 2 年の始良川の鹿児島県河川整備作業の際に、吾平山上陵から 4km 離れた所で発見され、現在の位置に移築されました。この碑文の後ろの文言は、今上天皇の家庭教師、学習院大学教授などをされた池田俊彦氏（大始良出身）です。



昭和天皇行幸記念碑と放水路の橋

吾平山陵の開門は午前 8 時で閉門は午後 5 時となっていて、一年中参拝できるようになっています。なお、元旦だけは、午前 0 時に開門です。

こちらの門から奥が、宮内庁の管轄になります。ここで一礼して入っていきます。最初の橋は、吾平山上陵を災害から防護するために、新たに掘削された放水路横断の橋です。

昭和 37 年 5 月 9 日には当時の皇太子（今上天皇）と皇太子妃（美智子皇后）が参拝されていますが、当時の橋は杉で造られた太鼓橋でした。昭和 42 年に御陵内の橋は 3 橋ともコンクリート橋に架け替えられました。



コンクリート橋

一般に参拝者は身を清めるため、御手洗場で手を洗ってから参拝されます。山陵の御手洗場の始良川では、伊勢神宮の五十鈴川を思い起こされる方もおられるようです。また、参道を歩かれると、伊勢神宮と同じ雰囲気があると気付かれる方もあるかと思います。そのため、吾平山上陵は“小伊勢”とも呼ばれています。



御手洗場

参道の横に小さな建物があります。ここには宮内庁の事務所で、御陵の管理を担当されている宮内庁職員（嘱託）の方が一名おられます。ここは京都市伏見にある桃山陵墓監区事務所の管区になっています。山陵の御陵印も桃山陵墓監区事務所にあります。



宮内庁の事務所

この事務所の左側に杉科の大木が1本あります。中国の杉で、広い葉の杉と書いて広葉杉コウヨウザンと言います。樹齢は400年と推定されています。昭和13年の水害前は、参道の両側に大人5、6人が手をつないでも届かない大杉が林立していて、荘厳さがありました。



杉に囲まれた参道と広葉杉（右）

参道の突き当りの辺りが、一般の方々の拝礼場所です。橋を渡って岩屋の前から参拝するには、宮内庁の許可を得なければなりません。拝礼の仕方は二礼二拍一礼で、一般の神社と同じです。



参道の最後（左）と拝礼場所

岩屋の説明をします。岩屋は東北に向かい、入口の高さは3m少し、奥行きが14.5m、横幅が23.6mあり、広さは297m²（約90坪、180畳ほど）です。その中に、高さ1.3m、周囲5m、その横に高さ0.9m、周囲3mの円形の塚が二つあります。大きい方がウガヤフキアエズノミコト、小さい方がタマヨリヒメの御陵とされています。岩屋の中の御陵は、全国でも類を見ない貴重なものだそうです。吾平山上陵は、別名「鶺鴒山（ウドサン）」とも呼ばれております。それは内部が空洞になっている場所を意味しています。祭神がウガヤフキアエズノミコト（鶺鴒草葺不合命）であることにちなんで、「鶺鴒」が当てられています。宮崎の鶺鴒神宮もそうです。



岩屋を望む

拝礼場所では滝の音が聞こえると思いますが、この滝を吾平では「稚児の滝」と呼んでいます。昔この近くにあったお寺の稚児さんが、理由あってこの滝壺に身を投じたということから、「稚児の滝」と言うようになったと伝説として残っています。その供養塔も上にありましたが、今はありません。

この吾平山上陵は、四季を通じて人々の心を和ませてくれますが、特に春の桜と秋の紅葉

は格別なものがあります。また野鳥の宝庫でもあります。特に観光案内人さんがおススメは、春から7月の中頃まで鳴く「河鹿蛙（カジカガエル）」です。河鹿蛙は清流にしか生息しておらず、日本一の美声の持ち主です。その美声を **You Tube** でも聴くことができます。



始良川沿いの桜

《吾平山上陵の案内サービス》

吾平山上陵には観光案内人が一人います。駐車場から見て左手の始良川の横に「吾平町物産展示館（〒893-1101 鹿屋市吾平町上名 5250 番地 1）」があり、その中で勤務しています。

開館は火曜日から日曜日の午前9時半から12時半までで、月曜日は休館です。

電話（☎0994-58-5517）で申し込んでいただくと、吾平山上陵のいわれ、歴史、自然などをご説明しながら、吾平山上陵の一番奥の岩屋の拝礼場所までご案内します。事前の申し込み次第では、勤務時間外の案内も可能です。

吾平町物産展示館には、皇族の行幸、野鳥、吾平の水害などの写真も展示されています。ご来館と案内サービスのご利用をお待ちしています。



吾平町物産展示館と展示物例

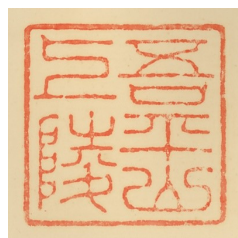
資料



岩屋前での古い記念写真（年代未詳）



昭和 13 年の水害で流された吾平山上陵の御神木



吾平山上陵の御陵印

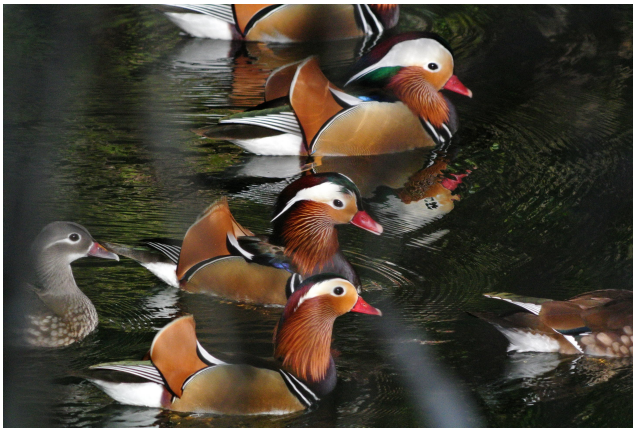
吾平山上陵の生物写真例（原村和好氏撮影）



カワセミ



ヤマセミ



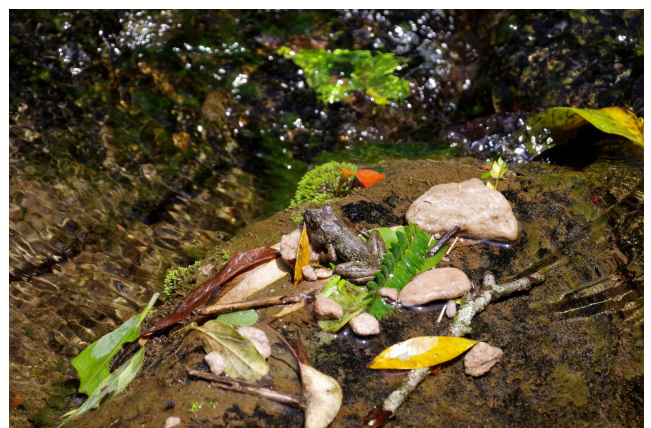
オシドリ



セキレイ



スッポン



カジカガエル